

2022年 9月 8日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	菊地 宏	所属	建築学科
		職位	教授
研究課題	コーカサス・スイス地方の地形風土と山岳都市の調査、視察(継続)		
研究先機関	ジョージア(渡航中止※1) スイス		
主な滞在地 (国・都市名)	ジョージア・トビリシ(渡航中止※1) スイス・バーゼル		
渡航日程	2022年8月13日 ～ 22年 8月26日 (14日間)		
研究目的・理由	コーカサス、スイスの異なる二地点の山岳地方を訪れ、その山岳文化、山岳都市の調査、視察を行う。前回の視察に続き、残りのコーカサス地方の山岳要塞を訪れる。またスイスでは、山岳文化としての山小屋の調査をする。		
研究成果発表予定 (展覧会、著書、 論文発表等)	地形風土と山岳地域の都市と建築について将来的に著書を予定している。 (※1)ジョージアに対するコロナ感染症危険情報レベルは「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」の解除が見込めないため、今回はジョージアの渡航は急遽見送ることとした。その代わりに南スイス・北イタリアの山岳の情報収集、またスイス・イタリアの建築群の視察を中心に変更した。		

研究内容

山岳都市研究は、継続研究であるが、今年は、コロナ禍ということもあり、ジョージアは渡航自粛要請下(※1)にあり断念。またスイス内でも帰国前72時間前のPCR検査などもあり、移動に制限があった。

山岳都市研究を進めるにあたり、山岳都市を目指していたが、渡航の制限もあり、比較的移動の自由度の高い平野部、臨海部の都市を訪れることになった。奇しくも平野部や臨海部の都市を訪れることで一見山岳とは関係なさそうなこれらの都市も実のところ密接に山と関係していることがわかった。特に水道などのインフラは山岳部に依存しており、また都市を形成する石材などもその土地の地質と関係するものであった。また今回は叶わなかったが、北イタリア・ドロミテ、トスカーナなどの山岳都市についても考えるきっかけとなった。また組積造が中心のヨーロッパでは、それらの石がどこから産出され都市に持ち込まれているのかも都市を理解する上で重要であることがわかった。

後半は、スイスへ移動し、最近新しくなったルツェルンの氷河公園を訪れた。山岳部だけでなく、古くは氷河が都市部も覆っており、その痕跡を地中にみることができたのは大きな感動だった。

山岳都市を深い理解するには、山岳部だけでなくその周辺の都市をみることの重要性を改めて感じた。

また山岳建築の研究と共に継続的に注目しているのが、90年代後半、世界で一躍注目の的となったスイス現代建築のその後の行方についてである。スイス現代建築も時代や世代の転換期を迎えており、表現の幅や独自性への模索が続く。その一方、現代建築が色褪せ、長い時間の経過の中でどう再評価されるのか、それもまた注目していくべきところと感じている。少し危惧していることとして、現代建築が都市景観として正しい方向に導かれているかというのは少し見ていて気になった。特に歴史都市、旧市街に突如視界の向こうに現れる新しいビル群は、すべてがうまく行っているというもわけでもなく、定期的にスイスを訪れる中で以前の方が都市景観としてはよかったと思うことも多い。

さらに現代建築の最前線で今問題になってきている建築物の自然への歩み寄り、擬態、共存などについてである。それらは、素材であったり、造形であったりするが、ルツェルンでみた氷河公園などにみる建築家による実践は写真で見る印象とは異なり、実際体験する中で建築家が目指す自然との歩み寄りは果たして現実として受け入れ可能なかどうか、実際見て体験することでしか評価できない建築の重要性を強く感じずにはいられなかった。雑誌や写真で見てよいと思って訪れてもそれと同等の感動が得られる建築もあれば、そうでないものもある。それらの違いは何なのか、経験値があがった今でこそ、その違和感の要因を探してみたいとも思うが、かなり難しい作業になることは容易に理解できる。また今回訪れた氷河公園などはできてまだ時間の経過が浅く、経年変化とともに表情が更新されることも期待されるので、また日を改めて訪れたいと感じた。

大学授業における
研究成果の還元

都市構造を理解するうえで山岳都市を見ることは、その構造の一部を理解する上で必要不可欠であるし、どんな都市や町、村も防衛的側面、インフラ、気候風土、地形など様々な条件にならって出来上がっている。それらを踏まえた上で都市を見、理解することは、建築教育の上で重要なことであるし、今後も続くであろう都市開発、都市の新陳代謝において必要不可欠であると考え。一見成熟しきった都市はもはやそのような縛りからは開放されて自由に成長しているようにも見えるが、どんな都市でもその基盤となる部分は今も昔も変わらない。

建築教育となるとどうしても箱物としての建築を作ることに注視しがちではあるが、良い事例、うまく行っていない事例などを授業で紹介することで、教育の中に議論を生み、考えるきっかけとして授業に還元したいと考えている。

建築ができる以上に、それによって失われるものがある。それを見て考えて、理解し予測できることがこれからの設計者には重要なスキルとなってくるだろうし、そういうことができない限り、どんな都市もよい方向には向かっていかないであろう。これは日本の建築界だけでなく世界のどの国の都市でも抱える重要な問題であると考えている。

また、昨今の現代建築の動向をイメージだけでなく、実体験から感じられたことを交えることによってより踏み込んだ議論を学生とできると考えている。

不運にもまだコロナ禍で自由な渡航がしづらい時期ではあるが、学生も次第に建築視察を再開している中、教員も実際体験する中で、リアルな議論やアドバイスができると考えている。

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
2022/8/13	日本・成田	18:35	スイス・チューリッヒ	(移動日)	1
2022/8/14	スイス・チューリッヒ	8:20	イタリア・ベネチア	ベネチア市内	1
2022/8/15			イタリア・ベネチア	ビエンナーレ視察	1
2022/8/16			イタリア・ベネチア	パラディオ建築見学	1
2022/8/17			イタリア・ミラノ	(移動日)	1
2022/8/18			イタリア・ミラノ	プラダ財団建物等視察	1
2022/8/19			イタリア・ミラノ	ガララテーゼ集合住宅等視察	1
2022/8/20			スイス・ルツェルン	(移動日) ルツェルン旧市街	1
2022/8/21			スイス・ルツェルン	氷河公園 ピラトゥス	1
2022/8/22			スイス・バーゼル	ルツェルン建築視察 (移動日)	1
2022/8/23			スイス・バーゼル	(PCR 検査) ロンシャンの教会 バーゼル市内建築群	1
2022/8/24			スイス・バーゼル	Vitra ミュージアム	1
2022/8/25			スイス・バーゼル	Aarau 現代建築視察	1
2022/8/26	スイス・チューリッヒ	8/27	日本・成田		
備考					
	(※)前半予定していたジョージアへの渡航は、ジョージアに対するコロナ感染症危険情報レベルは「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」の解除が見込めないためギリギリまで検討したが、現地の医療体制などを考慮し見送ることとした。				

以上

※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。

※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。